

2022年6月教会便り 美唄～砂川

主任司祭 ナルチゾ神父

イエスのみ心

6月24日イエスの聖心と25日聖母の聖心のお祝いです。

イエスのみ心の祭日は、本来「キリストの聖体」の祭日に続く金曜日に祝います。“イエスのみ心”への信心は、17世紀にフランスで聖マルガリタ・マリア・アラコックが、神から啓示を受けたことから始まりました。その噂は瞬く間にフランス中に拡散しました。その後1856年、教皇ピオ9世はローマ教会全体で“イエスのみ心”を祝うように制定しました。またこの日を契機にフランスや他のキリスト教国では、“聖心”(みこころ)名を付けた修道会が沢山誕生しました。この祭日を祝う目的は神様の愛をイエスの愛と献身を通して与える“イエスのみ心”に敬い讃えることなのです。



キリストの聖体とみ心の祝日を例年6月にお祝いしていたことから、6月は「イエスのみ心の月」として、自然に定められたと伝えられます。教皇ベネディクト16世は、書簡の中(2006年5月15日)で次のように記しています。

「槍で刺し貫かれたイエスの脇腹を礼拝しながら観想することにより、わたしたちは、人びとを救おうとする神のみ旨を感じることができるようになります。…『槍で刺し貫かれた脇腹』の内に神の限りない救いのみ旨が輝いています。ですから、この脇腹を仰ぎ見ること(み心の信心)を、過去の礼拝ないし信心の形と考えてはなりません。

刺し貫かれた心という象徴に歴史的な信心の表現を見いだした神の愛の礼拝は、神との生きた関係にとって不可欠なものであり続けます」と。また教皇フランシスコも『『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だからわたしの軛を負い、わたしに学びなさい』(マタイ11:28-29)。…『一人の兵士が槍でイエスの脇腹を刺すと、そこから血と水とが流れ出ました』(ヨハネ19:34)ヨハネは、偶然的に見えるこのしるしのうちに、預言の成就を認めました。十字架上の生贖の小羊であるイエスのみ心から、人類全体に対する“ゆるし”のいのちが“あふれ出る”のです。しかし、イエスのあわれみは単なる感情ではありません。それは、いのちを与え、人間をよみがえらせる力なのです」と言われました。

み心の信心は、教会において大切な泉であり、キリスト教の中心的信心であると言っても過言ではありません。この“イエスのみ心”の限りない愛に対して、私たちの出来得る可能な限りの愛で応える信心の目的を日々の生活の中で実践して、このみ心の月を大切に過ごしましょう。(Laudate 参考)



6月の主な典礼・ミサ時刻

日	曜	典礼暦	砂川	美唄
5	日	聖霊降臨の主日 を願う 聖職者・修道者のために祈る日 降臨を求める P4 平和 当教会出身 P16 聖霊の	9:00ミサ 先読:高塚紀子 第1 :岡本 第2:齊藤 典礼聖歌 :三上夫妻 オルガン:野呂	11:00
12	日	三位一体の主日 と召出を求めるために祈る日 の祈り 再開 司祭 お告げ	9:00ミサ 先読:多田 第1:西川薫 第2:間野 典礼聖歌: 高塚/多田 オルガン:多田	11:00
19	日	キリストの聖体 と洗礼志願者のために祈る日 病者	9:00ミサ 先読:野呂 第1: 三上朋 第2:安藤 典礼聖歌: 野呂/古野 オルガン:多田	11:00
26	日	年間第13主日 から離れた信者のために祈る日 教会	9:00ミサ 先読:高塚 第1: 古野 第2:間野 典礼聖歌 :三上夫妻 オルガン:野呂	11:00

◆平日のミサ ○砂川教会:月曜日～金曜日 6:30、土曜日10:00 ○美唄教会: 金曜日10:30

◆今月の霊名記念日の方…おめでとうございます(敬称略)

○砂川教会	○美唄教会
29日聖ペトロ 多田博道・千田勝太郎 安藤義満・間野清光、西川薫	18日聖ユリアナ 山内敦子 24日聖パウラ 小川知子 洗礼者ヨハネ 三間英司 29日聖ペトロ 小川 真

◆砂川教会 お知らせ

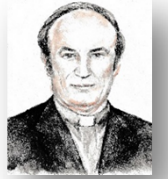
- ・19日(日) ナルチゾ神父様叙階58年記念祝い(1964年6月21日叙階)
- ・ロザリオ会は10日(金) 午後7:00～ 信徒会室にて。
- ・毎週水曜日 10:00～ 聖書に親しむ会を実施しています。

◆その他 26日(日)聖ペトロ使徒座への献金

砂川 花当番	
4日(土)	古野
11日(土)	高塚
18日(土)	多比良
25日(土)	野呂

ナルチゾ神父様へ

ジェイムズ・マッキンタイア



3年間お世話になりました。2年くらい神父様と一緒に侍者ができたことはとても嬉しい思い出です。神父様から色々と学ぶことができました。もちろん神父様のご説教は知恵に満ちてとても勉強になりますが、神父様を間近に見ることで色々勉強することができました。神父様からは毎日を大事にするということを学びました。神父様はいつも明日がある保証はないからやるべきことを今やりなさいとおっしゃいます。分かっていることでも実行することはとても難しいです。しかし、その言葉を何回も聞いているうちにそれがただの神父様の人生論だけではなく、聖書に書かれてイエズスが私たちに言っていることだと分かりました。毎日を大事にしてその日の課題にしっかり向き合えるように頑張りたいと思います。感謝の気持ちを大事にして全てのことに感謝する、ということも神父様から学びました。思う通りにならないことを感謝することは難しいです。何でも感謝しなさいと言われても怒ったりがっかりしたり素直な気持ちを出してはいけないと思ってしまいますが、きっと神父様がおっしゃっていることの意味がもっと深いような気がします。感謝するということは全てのことの良いところを見つけ出すということだと思います。それができるときっと幸せになるでしょう。

何より神父様を見ていると一番感動したことは、神父様の生き様です。一週間に一度しかお会いしませんが、神父様が一つの生き方を貫いている姿がとても素敵でその姿に力づけられます。私は美唄市に来た時に新しいところで新しいことをすることはとても楽しみでわくわくしていました。しかし、美唄が私のイメージと違い、仕事も期待に至らず、美唄に来ることを後悔したことはしばしばありました。

美唄に来るまでは、私がいつも夢を持っていました。その夢は実現しないことが多かったですが「こうやりたい」ということが私の中に常にありました。しかし、美唄に来ると本当に何がしたいのか、何をすべきなのかが分からなくなり、長い時間悩みました。その中で私の生き方に向き合わされました。若い時に「いつかこうなりたい、いつかこれをやりたい」と将来のことを想像していましたが、20代後半に入ると「いつか」が言えなくなります。「今」何をするかという問いに答えられなかったことはとても不安でした。しかし、神父様のご説教でおっしゃっていました。



ある若い神父様が教会の信者さんに聖書のことを教えようと思って聖書をたくさん買いました。しかし、毎日聖書のことを教えようとしたら、信者さんに呼ばれたり、子供にあったりして、聖書を教えることができませんでした。その説教を聞いた時に分かりませんでした。今となればその意味が分かります。やはり私たちのやるべきことは目の前のことです。毎日の課題に一生懸命に取り組むことが私たちに求められることで、その毎日

の積み重ねが大きなことになっていきます。ですから、毎日一生懸命に生きないといけません。今後は兵庫県の豊岡市に行きますが、その後も日本にいます。日本にやるべきことがあるように感じるからです。日本の子どもたちに夢を与え学校教育の改善に努めたいと思っています。その後、日本をよくするために力をつくしたいです。しかし、それは「今日」のことから始めますよね。そのためにもっと美しく生きるようにしたいと思います。

神父様から色々と人生について学べたことに感謝しています。ありがとうございます。まだ未熟な私ですのでこれからも勉強しながら神父様から学んだことをちゃんと実行で来るように頑張ります。私のためにお祈りください。